

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン

ODNJP 会報 No. 4

2022年8月1日発行

# Open Dialogue Network Japan

Newsletter No.4 (August 1, 2022)

01. 会報について	p. 1
02. オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン規約	p. 1~2
03. 運営委員会名簿	p. 3
04. 沿革	p. 3
05. 総会報告	p. 4
05. 運営委員会報告	p. 5
06. 委員会報告	p. 6
07. 主催イベント報告	p. 7
08. トレーニングコース	p. 8
09. 特集 オープンダイアログの本紹介	p. 8~10

## 01

## 会報について

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン (ODNJP) 会報 No.4 をお届けします。2021 年から 2022 年にかけても大きくコロナ禍の影響を受ける中での活動となりました。中心的な活動のひとつとして、オープンダイアログのトレーニングコース（対話実践の基礎コース）第 3 期が開催されましたが、24 日間に渡る全日程をオンライン開催とせざるを得ませんでした。難しい状況ではありましたが、参加者や関係者のみなさまの協力や熱意によって、オンラインならではのつながりのあり方が創造される機会にもなったとも感じております。またオープンダイアログを通じたさまざまなつながりをより深め・広めていただくために、会報の年 2 回発行を実施し、さらに SNS を用いた参加者交流のためのプラットフォーム提供準備などを進めております。今後もみなさまの声を伺いながら、ODNJP の活動を多くの方に知っていただけるように努めて参ります。

広報委員会 笹原信一郎・大谷保和

## 02

オープンダイアログ・  
ネットワーク・ジャパン  
規約

2016 年 7 月 9 日制定  
2017 年 12 月 10 日改正  
2019 年 6 月 2 日改正  
2021 年 6 月 27 日改正  
2022 年 7 月 1 日改正

(名称と所在地)

第 1 条 本ネットワークは「オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン」と称し、英語名は Open Dialogue Network Japan とする。略称は ODNJP とし、2015 年 3 月 30 日を設立日とする。

第 2 条 本ネットワークは所在地を、〒105-0013 東京都港区浜松町 2 丁目 2 番 15 号 浜松町ダイヤビル 2F に置く。

(目的)

第 3 条 本ネットワークはフィンランド西ラップランド地方で開発されてきた精神科医療の包括的なアプローチであるオープンダイアログに関する情報提供や研修などを通して、日本におけるオープンダイアログの普及や実践支援などの活動を行うことを目的とする。

第 4 条 前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) フィンランドおよび他国のオープンダイアログに関する組織との連携
- (2) セミナー、講演会、トレーニングコース、ワークショップなどの実施
- (3) 会報の発行
- (4) その他必要とされる事業

(会員)

第 5 条 会員種別は正会員（個人）、賛助会員（個人または団体）、名誉会員とする。

第 6 条 本ネットワークへの入退会の手続き方法は運営委員会が定める。

第 7 条 正会員は総会に出席する権利と総会における議決権を持つ。

(会費)

第 8 条 会員の年会費は以下の通りとする。

正会員 6,000 円

正会員（減免）※ 3,000 円

賛助会員 3,000 円（1 口）※賛助会員は 1 口以上の会費を納めることとする。

名誉会員からは年会費は徴収しない。年会費の有効期限は支払い時期にかかわらず、会計年度末までとする。

※正会員年会費の一般・減免の種別は、正会員としての

資格には影響しない。年会費の減免制度が適用される者は原則として学生又は常勤職の無い者とする。学生又は常勤職の無い者以外で減免制度の適用を希望する者については、申請にもとづき、運営委員会で適否を決定するものとする。

(運営組織)

第 9 条 本ネットワークに共同代表若干名、運営委員 20 名程度、事務局長 1 名をおく。

第 10 条 共同代表、運営委員、事務局長は運営委員会を構成し、運営委員会は本ネットワークの運営に関わる事項の決定を行う。

第 11 条 共同代表は本ネットワークを代表し、事務局長は事務局を統括する。共同代表および事務局長は本ネットワークの日常業務や緊急に決定が必要な事項に関する決定を行う。事務局は会費およびセミナー等に関する会計業務などを行う。

第 12 条 運営委員会は個別の業務を統括する各種委員会を運営委員会の下に設置することができる。

(役員選出方法と任期)

第 13 条 運営委員は年一回開催される通常総会において正会員より選出する。(必要に応じて臨時総会においても運営委員を選出する。)共同代表、事務局長は運営委員の互選により選出する。運営委員・共同代表・事務局長の任期は原則として 1 年(7 月 1 日より翌年の 6 月 30 日まで)とし、再任を妨げない。

(総会)

第 14 条 通常総会は年 1 回開催することとし、必要に応じて臨時総会を開催する。

第 15 条 総会は運営委員の選出のほか、規約の改正、次年度の活動基本方針の決定など、本ネットワークの方向性に関わる重要事項の決定を行う。

第 16 条 運営委員会は通常総会において、前回の通常総会からの期間の活動経過報告および会計報告を行う。

第 17 条 総会の成立要件は正会員出席者数および正会員委任状提出者数が正会員数の過半数を超えることとする。なお総会の議決権をもち、総会の成立要件の基礎数としてカウントされる正会員は、総会が行われる日の 1 か月前の時点で正会員として登録している者とする。

第 18 条 予算の作成、予算の執行および決算に関する事項については、総会などの議決に基づき行われる。

第 19 条 総会等における議決は多数決の原則により行われる。

附則 本規約は 2016 年 6 月 18 日に開催された第一回総会の決定にもとづき、運営委員会での審議を経て定められたものであり、2016 年 7 月 10 日より適用する。

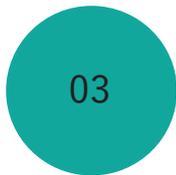
附則 2 本ネットワークの会計年度は 4 月 1 日より 3 月 31 日までとする。

附則 3 2017 年 12 月 10 日に開催された第一回臨時総会の決定にもとづき、この規約の一部を改訂し、2017 年 12 月 18 日から適用する。

附則 4 2019 年 6 月 2 日に開催された第 4 回総会の決定にもとづき、この規約の一部を改訂し、2019 年 7 月 1 日から適用する。

附則 5 2021 年 6 月 27 日に開催された第 6 回総会の決定にもとづき、この規約の一部を改訂し、2021 年 7 月 1 日から適用する。

附則 6 2022 年 6 月 26 日に開催された第 7 回総会の決定にもとづき、この規約の一部を改訂し、2022 年 7 月 1 日から適用する。(ただし、正会員年会費の減免制度は、2023 年度の会費より適用する。)



### 03 運営委員会名簿

#### 2021 年度 運営委員会名簿

- 【共同代表】石原 孝二 斎藤 環 高木 俊介
- 【運営委員】石橋 佐枝子 植村 太郎 大井 雄一  
大谷 保和 大熊 由紀子 河上 真人 笹原 信一朗  
白木 孝二 西村 秋生 福井 里江 三ツ井 直子  
宮本 有紀 向谷地 生良 村上 純一 村井 美和子  
森田 展彰 山田 成志 渡邊 乾
- 【事務局長】大谷 保和
- 【名誉会員】Tom Erik Arnkil Jaakko Seikkula

#### 2022 年度 運営委員会名簿

- 【共同代表】石原 孝二 斎藤 環 高木 俊介
- 【運営委員】石橋 佐枝子 植村 太郎 大井 雄一  
大谷 保和 大熊 由紀子 河上 真人 笹原 信一朗  
白木 孝二 西村 秋生 福井 里江 三ツ井 直子  
向谷地 生良 村上 純一 森田 展彰 山田 成志
- 【事務局長】大谷 保和
- 【名誉会員】Tom Erik Arnkil Jaakko Seikkula



### 04 沿革

- 2015 年 3 月 30 日：オープンダイアログ研究連絡会議  
開催（ネットワーク発足）
- 2015 年 9 月 1 日・2 日：ケロプダス病院視察
- 2015 年 9 月 5 日：（暫定）代表選出（斎藤環）
- 2015 年 11 月 29 日・12 月 1 日：オープンダイアログ  
セミナー（東京、大阪）開催
- 2016 年 5 月 13 日 -15 日：オープンダイアログワーク  
ショップ（東京）開催
- 2016 年 6 月 18 日：第 1 回総会 共同代表・運営委員・  
事務局長選出、規約案検討
- 2016 年 7 月 9 日：規約制定
- 2017 年 5 月～11 月：第一期基礎トレーニングコース（ダ  
イアログ実践の基礎コース）開催
- 2017 年 6 月 18 日：第 2 回総会
- 2018 年 3 月：ODNJP 対話実践のガイドライン公開
- 2018 年 5 月 27 日：第 3 回総会
- 2019 年 5 月～：第二期オープンダイアログトレーニン  
グ基礎コース開催
- 2019 年 6 月 2 日：第 4 回総会
- 2020 年 7 月 5 日：第 5 回総会
- 2021 年 3 月～：第三期オープンダイアログトレーニン  
グ基礎コース開催
- 2021 年 6 月 27 日：第 6 回総会
- 2022 年 6 月 26 日：第 7 回総会

トワーク委員会、広報委員会、ワークショップ委員会、サービス提供システム研究 WG より、各委員会の活動計画が報告され承認されました。

会員現況:2022年6月19日現在において、正会員=451名、賛助会員=69名(計520名)であることが報告されました。

## 2021 年度

【日程】2021年6月27日

【場所】オンライン開催 (Zoom)

活動報告:以下の活動について報告され、承認されました。総会、総会記念イベント(ヘルシンキ OD トレーナーズトレーニング体験・鼎談、オンラインにおける対話実践の可能性)、オープンダイアログ基礎トレーニングコース(第二期・第三期)、「オープンダイアログをめぐるミアさんカリさんとの対話」、シンポジウム「対話・会話・コミュニケーション」、ミアカリさんとの学びの会、会報作成。

会計報告:資料にもとづき、事務局から報告が行われ、承認されました。

運営委員選出:2020年度運営委員会から提案されたリストに基づき、2021年度の運営委員が選出されました。

活動計画:第3期トレーニング基礎コースを引き続き実施していくこと、シンポジウムなどの計画が報告され、承認されました。

会員現況:2021年6月21日現在において、正会員=454名、賛助会員=69名(計523名)であることが報告されました。

## 2022 年度

【日程】2022年6月26日

【場所】オンライン開催 (Zoom)

活動報告:以下の活動について報告され、承認されました。総会、総会記念イベント(全体会:今、「オープンダイアログ」について改めて考える・実践報告会・分科会)、オンライン連続シンポジウム1「薬をめぐる対話」、オンライン連続シンポジウム2「精神科サバイバーの経験と「統合失調症」というラベル(ヒアリングボイイズ? 「統合失調症」?スキゾフレニア?)」、運営委員会、トレーニングコース委員会、ネットワーク委員会、広報委員会、ワークショップ委員会、サービス提供システム研究WG、オープンダイアログの未来を語る会。

会計報告:資料にもとづき、事務局から報告が行われ、承認されました。

運営委員選出:2021年度運営委員会から提案されたリストに基づき、2022年度の運営委員が選出されました。

活動計画:運営委員会、トレーニングコース委員会、ネッ

06

運営委員会報告

2021 年 6 月 27 日

総会ならびに総会記念イベント後に開催され、新しい運営委員を迎えた初めての運営委員会となった。総会記念イベントについての会報を制作することや、新年度の運営委員会の日程などが決定した。会員を各委員会にご招待するための案内文について話し合われた。

2021 年 7 月 31 日

今年度より、最初に各委員会の報告を行うこととなった。事務局長が決定した。2018 年に開催された講演会（「創始者が語るオープンダイアログ：誕生の物語と未来への可能性」）に字幕をつけて公開することとなった。2021 年度のスケジュールについて話し合われた。

2021 年 9 月 4 日

オンライン連続シンポジウムの開催日程が決定した。「オープンダイアログの未来を語る会」や年間計画について、自由に意見交換を行う時間を設けた。

2021 年 9 月 25 日

広報委員会で検討中の「会員向け掲示板」について意見交換を行った。2021 年度運営委員会の開催日時を決定した。

2021 年 10 月 23 日

広報委員会によって会報の特別号（総会記念イベントの特集号）が発行された。ネットワーク委員会よりイベントが提案された。ワークショップの開催について話し合われた。

2021 年 11 月 27 日

トレーニング基礎コースの第四ブロックがオンライン開催に決定したことが報告された。オンラインイベントの「薬をめぐる対話」について、企画内容が話し合われた。

2021 年 12 月 25 日

会員管理システムの乗り換えについて事務局で話し合うことが決定した。ネットワーク委員会より、開催予定のイベントを延期することが報告された。

2022 年 1 月 22 日

会員向け掲示板として「ODNJP コミュニティ Slack（仮称）」を作ることが話し合われた。規約等は今後決定していくこととなった。

2022 年 2 月 26 日

トレーニング基礎コースが終了したことが報告された。研修依頼が届いている件について、各担当者から情報が提供され、意見交換を行った。会費の値下げや総会の選挙方法について、今後話し合うことが確認された。

2022 年 3 月 26 日

発行予定の会報について執筆担当者が決定した。オンライン連続シンポジウム 1「薬をめぐる対話」が終了したことが報告された。シンポジウム 2 は本運営委員会の次週に開催された。総会記念イベントのテーマについて話し合われた。ワークショップ委員会より、ワークショップの開催案が提出された。

2022 年 4 月 23 日

オンライン連続シンポジウム、未来を語る会などについて報告が行われた。総会と会費について話し合われた。

2022 年 5 月 28 日

オープンダイアログ・トレーニングコース インストラクターコース（仮称）について、トレーニングコース委員会より報告された。2022 年度に実践報告会を行うことについて同意された。総会について詳細な打ち合わせがおこなわれた。

「会員参加可」という記載のある委員会は、ODNJP 会員の皆さまに参加いただけます。ご関心のある方は ODNJP 事務局までご連絡ください。

### トレーニングコース委員会

トレーニングコース委員会の 2021 年度の活動は、第 3 回の OD 基礎トレーニングコースの運営(第 2-第 4 ブロック)が中心となりました。ブロックごとにギリギリまで対面開催の可能性を検討しておりましたが、社会情勢を鑑みて最終的にすべてのブロックがオンライン開催となり、それに伴う様々な対応の必要性が生じました(受講生への一部返金、ファミリーオブオリジンや収穫祭としての最終発表などグループワークが可能な状況をどう提供するかについての調整など)。受講生のみなさまにはご不便をおかけしましたが、みなさまのご協力によって素晴らしい雰囲気ですべてのコースを終えることができたと感じております。年度後半は、基礎トレーニング修了生に更なる学びの機会を提供するためのコース設計についての議論も行っていました。OD を継続してトレーニングする仕組みを作るために、フィンランドの OD トレーナーコースを修了した/参加中のみなさまにご協力いただきながら、アドバンストなコースの提供可能性も新たに検討しております。詳細について決まりましたら改めてご連絡いたします。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。(大谷保和)

### ネットワーク委員会 (会員参加可)

ODNJP ネットワーク委員会の活動は、ネットワークという言葉が何をイメージしているのかについて、委員会で語り合うことから開始しました。毎月 1 回、オンラインで委員会を開催し、会員が相互につながる機会を増やせるよう検討したり、広報委員会と連携して情報交流できる場の創出の準備を進めてきました。

日本各地で多くの方が各々の現場で、オープンダイアログにつながるようなさまざまな実践に取り組んでおられ、それぞれの地域の文脈の中でこそ生まれるユニークさが豊かに育ち始めています。ODNJP ネットワーク委員会は、こうした各地の実践が出会える仕組みを、それぞれの地域の方々と協働して作っていくことができると考え、これからも活動を継続してまいります。新メンバーも募集しておりますので、関心を持ってくださる方がいらっしゃいましたら、ODNJP までお問い合わせください。みなさまのご参加をお待ちしております。

### 広報委員会 (会員参加可)

広報委員会では、① ODNJP の活動を会員の皆さまに発信すること② ODNJP の活動を広く社会に発信することを目的に活動しています。

昨年度は、委員 4 名で月 1 回 60 分程度の定例委員会(第二水曜 20:30-が多い傾向)を zoom で行いながら、会報の発行、イベントの動画公開と ODNJP コミュニティ Slack の準備を行いました。来年度は、今年度の活動を継続しながら、新規委員をさらに募集して多様な視点のもとその広報活動を充実することを目指して行きたいと考えています。ぜひ広報委員会の活動に興味を持ち無理ない範囲でボランティアとして一緒に活動する会員の皆さまからのご参加をお待ちしております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。(笹原信一朗)

### ワークショップ委員会

ワークショップ委員会では、①オープンダイアログの学びを深める機会を提供すること②学ぶ者同士でネットワークを作る機会を提供することを目的としたワークショップの開催準備を進めています。本ワークショップは、ODNJP 会員のうちトレーニングコース未修者を対象に、週末の 1 日(午前 3 時間、午後 3 時間程度)を用いて、オンラインで実施する予定です。レクチャーとワークを通じてオープンダイアログの基本的な考え方と態度を学べるように、現在プログラム作成の会議を重ねています。2022 年秋に第 1 回開催を目指し、その後は定期的な開催によって会員の多くの皆様にお届けできるように計画しています。募集の際には改めてメーリングリストを通じて告知させていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。(山田成志)

### サービス提供システム研究 ワーキンググループ (WG) (会員参加可)

日本の制度的な制約(診療報酬制度)のもとでオープンダイアログの原則・理念に沿ったサービス提供を行うためにはどうすればよいのかを考えることなどを目的として 2021 年 8 月から 2022 年 6 月まで、月 1 回程度のペースで、12 回開催されました。精神科病院、クリニック、訪問看護ステーション、総合病院などにおける現状や将来の可能性などについて情報交換と意見交換を行いました。話題提供をお願いしたのは、村上純一さん、山中一紗さん、三ツ井直子さん、森川すいめいさん、渡邊乾さん、斎藤環さん、西村秋生さん、岩波孝穂さん、金田礼三さんです。引き続きサービス提供システム研究 WG を開催し、サービス提供システムとしてのオープンダイアログの実現をめざして検討を進めていきたいと思えます。(石原孝二)

## オンライン連続シンポジウム 1 「薬をめぐる対話」

2022 年 3 月 26 日 (土) 13 時～16 時オンライン  
参加費：

ODNJP2021 年度会員 (正会員・賛助会員) 無料  
非会員 1,500 円

当事者 = (元) 精神科ユーザーの方 無料

企画：石原孝二、高木俊介、松本葉子、村上純一

登壇者：石原孝二、高木俊介、村上純一

シンポジウム参加登録者 = 345 人

### 【シンポジウム趣旨】

西ラップランドのオープンダイアログの実践においては、向精神薬の処方では極めて抑制的です。とくに抗精神病薬の処方には慎重です。それどころか、投薬の必要性の低さそのものが、オープンダイアログの成果を示す重要な指標とされています。他方、日本を含めた従来の精神科医療においては、向精神薬の処方が安易に行われ、向精神薬の副作用について、積極的な情報提供もなされていないという現状があります。薬に関しては精神科医が判断するものとされ、向精神薬の作用や害に関して、じっくりと話し合う機会も与えられていません。オープンダイアログに限らず、精神科医療において、向精神薬の処方が問題になるときは、薬を飲む当事者の方が薬の飲み心地をどう感じるのか、薬に対してどのような思いをもっているのか、時間をかけて話していくことが重要になるのではないのでしょうか。

オープンダイアログの実践において、向精神薬の処方控えるということとはどのような意味を持っているのでしょうか。また、日本において、薬についての対話を進めていくためにはどうしたら良いのでしょうか。3人のシンポジストによる話題提供と参加者の方を交えた対話を通して、じっくりと話し合っていければと思います。

### 【シンポジウム報告】

シンポジウムは高木さんのお話から始まりました。高木さんは、向精神薬について一概に否定するものではないとしながらも、ドーパミン仮説やセロトニン仮説に対する疑問を投げかけ、製薬企業の宣伝により、精神科の薬に関する捉え方がゆがめられていることを指摘しました。第二世代の抗精神病薬が第一世代の抗精神病薬よりも副作用が弱いとされたこと、また、抗うつ薬として売り出された SSRI が抗不安薬などにも適用されるよう

になったことなどの背景には、製薬企業の販売戦略があります。現状では、ある症状を消すために向精神薬が使われていますが、薬を使う本当の目的は、その人の人生がどれくらい改善されるかであって、薬の目指すところを変えていかないといけない、と強調して話を終えられました。

石原は、「薬をめぐる対話のために—薬物療法の歴史とオープンダイアログの起源を振り返る—」というタイトルで、オープンダイアログの起源と薬物療法の関係について話題提供を行いました。オープンダイアログのアプローチは、入院を控えることと、投薬を控えることを目的とし、この二つを重要な評価項目として、研究を継続的に行ってきました。オープンダイアログにおける「投薬の最小化」は、至適用量を投与するという意味ではなく、避けられる限り投薬を避けるということを指します。石原はまた、英国などで言われている「服薬を拒否する権利」を紹介するとともに、投薬の決定にあたっては、投薬の意味について、クライアントと十分に話しあっていくことが重要であることを指摘しました。

村上さんは、「くすりと対話実践」というタイトルで、精神科医としての立場から話題提供をされました。現在の日本の精神科医療の現状とオープンダイアログを含む対話実践ができる状況との間に大きな隔たりがあるとしながら、琵琶湖病院の病棟 (ユニット) での対話実践の取り組みを紹介され、長期入院されていた方 40 人のうちの約半数が退院になったことや、投薬量が、三分の二程度になったことなどについて述べられました。また、英国心理学会による「精神病・統合失調症の理解」(Understanding Psychosis and Schizophrenia

<https://www.bps.org.uk/what-psychology/understanding-psychosis-and-schizophrenia>) を紹介されながら、抗精神病薬は苦痛を軽減する場合があるものの、根本的な異常を修正しているというエビデンスはないこと、サービス提供者は、ユーザーに薬を飲むように圧力をかけるべきではない、というメッセージが重要であることなどを強調されていました。

その後 3 人のシンポジストの間で 30 分ほどやりとりをしたあと、後半は、当日参加していただいていた当事者の方やご家族の方、支援者の方にも加わっていただき、向精神薬についての思いについて対話を行いました。

終了後のアンケートでは、参加者の方から、様々な声をお届けいただきました。当事者の方にとって向精神薬はその生活や身体に大きな影響を与えるものであるにもかかわらず、そのことについて語る場があまりにも不足しているように思います。今後も薬についての対話の場を継続的に作っていきたいと考えています。

(石原孝二)

## 09

## トレーニングコース

2021 年 3 月より約一年にわたり開催されました第 3 期基礎コースは、34 名の受講者が全 4 ブロック、計 120 時間の過程を修了しました。今回は、第 2 期までのトレーナーであるカリ・ヴァルタネン氏、ミア・クルッティ氏に加え、日本人トレーナーとして森川すいめい氏と筆者が加わり、更にゲスト講師としてヤーッコ・セイックラ氏、ハンネレ・マキオリテルヴォ氏、エイヤリーサ・ラウティアイネン氏、村井美和子氏、森下圭子氏をお招きするという、大変バラエティに富んだ構成のトレーニングとなりました。

Covid-19 の影響ですべてオンライン開催となりましたが、対話のファシリテーションの技法も含め、感情的に揺れ動く体験も含まれた、繊細なプロセスに満ちたコースでした。受講者の皆さんは、自身の身体を対話に投げ、場を共に作り上げながら学習を継続されました。無事に最後まで歩みを受講生の皆さんと共に終えることができ、嬉しく思います。修了生の皆様のご活躍を祈念しています。(大井雄一)

## &lt;トレーニングコース日程&gt;

第一ブロック 2021 年 3 月 5 日(金)～7 日(日)、  
12 日(金)～14 日(日)

第二ブロック 2021 年 8 月 20 日(金)～22 日(日)、  
27 日(金)～29 日(日)

第三ブロック 2021 年 10 月 1 日(金)～3 日(日)、  
8 日(金)～10 日(日)

第四ブロック 2022 年 1 月 28 日(金)～30 日(日)、  
2 月 4 日(金)～6 日(日)

## 10

## 特集

## オープンダイアログの本紹介

会報 No.4 では「オープンダイアログの本」について特集します。近年、オープンダイアログについての本が多数出版され、どれを読もうか迷っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本特集では 4 冊の本について、著者からご紹介いただきます。次の一冊を選ぶご参考になさってください。

## 感じるオープンダイアログ

著者：森川すいめい

出版社：講談社

このたびは本書を紹介させていただきます機会をください誠にありがとうございます。

本書は二つの視座を交叉させながら現場実践の一助になることを願い 1 人称で書いたものです。

ひとつ目は、オープンダイアログがどんなふうにも人の役に立っているのか?、「人生は対話ミーティングの外で起こる」という背景をどこまでも信頼できることの大切さについて。

もう一つは、フィンランドでのトレーニングの様子のご紹介です。日本の皆様の現場で対話実践のためのトレーニングプログラムを作っていくためのアイデアの一助になることを。

本書が多くの場で対話が起こることのアイデアの一つとしてお役に立ちましたら幸いです。(森川すいめい)

## まんが

## やってみたくなるオープンダイアログ

著者：水谷緑・斎藤環

出版社：医学書院

本書は、オープンダイアログをテーマとした漫画解説書です。おそらく、今出版されているいかなる文献よりも、わかりやすくコンパクトにまとまっていると自負しています。もちろん実践のマニュアルではありませんが、「オープンダイアログってどんなものかな」くらいの軽い気持ちですぐ読める本を目指しました。水谷緑さんは「こころのナース夜野さん」などの著書もあり、精神医療にも理解の深い漫画家です。オープンダイアログへの違和感なども率直に表明しつつ、現場の空気が伝わるような描写をしてくれました。紹介した事例の方々はみな掲載に同意してくださり、私や水野さんも、かなり踏み込んだ自己開示をしています。おかげさまで

多くの人に手に取っていただいているようですが、本書をきっかけとして対話実践に興味を持つ人が増えたら、著者の一人としてうれしく思います。(斎藤環)

## オープンダイアローグ 思想と哲学

編者：石原孝二・斎藤環  
出版社：東京大学出版会

本書はオープンダイアローグの思想の源流を探り、オープンダイアローグの思想を現代哲学・現代思想の様々なアプローチと比較することにより、オープンダイアローグの思想的特徴を明らかにすることを目的としたものです。I「オープンダイアローグの思想の源流」では、オープンダイアローグの思想を概観したあと、ペイトソン、ナラティヴ・アプローチ、リフレクティング、バフチンなど、オープンダイアローグに影響を与えた思想家やアプローチを検討することを通して、オープンダイアローグの思想の基盤を明らかにすることが試みられます。II「オープンダイアローグと現代の哲学・思想」では、ラカン派の精神分析やガタリの思想、現象学、哲学カフェ、哲学対話、レヴィナスの思想などとの比較を通して、オープンダイアローグの思想的特徴を明らかにすることが試みられます。(石原孝二)

各章のタイトルと執筆者は以下の通りです。

はじめに (石原孝二・斎藤環)

- I オープンダイアローグの思想の源流
  - 1 オープンダイアローグの思想 (石原孝二)
  - 2 ペイトソンを学ぶのは何のため? ——関係性言語という語学 (野村直樹)
  - 3 ナラティヴ・アプローチとオープンダイアローグ (野口裕二)
  - 4 コンテキストとしてのリフレクティング (矢原隆行)
  - 5 バフチンの対話の哲学 (河野哲也)
  - II オープンダイアローグと現代の思想・哲学
  - 6 「対話」の否定神学 (斎藤環)
  - 7 精神分析とオープンダイアローグ (松本卓也)
  - 8 現象学とオープンダイアローグ—フッサール、デネット、シュッツ (石原孝二)
  - 9 哲学対話とオープンダイアローグ (山森裕毅)
  - 10 ダイアローグの空間——哲学カフェ、討議、オープンダイアローグ (五十嵐沙千子)
  - 11 レヴィナスとオープンダイアローグ (村上靖彦)
- おわりに——すべての思想を対話に置き換えること (斎藤環)

## オープンダイアローグ 実践システムと精神医療 編者：石原孝二・斎藤環 出版社：東京大学出版会

本書は、オープンダイアローグを支えるシステムに焦点をあて、その実践の基盤を明らかにするとともに、日本における導入に向けた様々な試みを紹介することを目的としたものです。

I「オープンダイアローグのシステムと思想」では、オープンダイアローグを可能にしたフィンランドの精神医療の制度の検討を踏まえた上で、日本における展開の可能性やその障壁について論じています。また、フィンランドの風土や米国における障害者運動とオープンダイアローグの思想の関係に関する2つのコラムが配置されています。II「オープンダイアローグと精神科医療・臨床心理」では、オープンダイアローグの日本における普及に何らかの形でかかわってきた精神科医・臨床心理士によって執筆された章が配置され、オープンダイアローグの理論的・実践的特徴と日本での展開の可能性について論じられています。III「オープンダイアローグと地域精神医療」では、日本で地域精神医療にかかわってきた実践家たちによる章が配置され、オープンダイアローグの思想やトレーニングを受けた経験が与えるインパクトなどについて論じられています。IV「オープンダイアローグのトレーニングと実践に向けた試み」では、5つのコラムが配置され、日本及び世界各国でのトレーニングの現状や、訪問看護ステーション、クリニック、精神科病院での対話実践の試み、そしてオンラインでの対話実践の取り組みが紹介されています。(石原孝二)

本書の章・コラムのタイトルと執筆者は以下の通りです。

はじめに (石原孝二・斎藤環)

- I オープンダイアローグのシステムと思想
- 1 オープンダイアローグのシステムと実践の基盤 (石原孝二)
- コラム1 フィンランドの風土とオープンダイアローグ (森下圭子)
- コラム2 障害者運動とオープンダイアローグ (熊谷晋一郎)
- 2 オープンダイアローグは日本の精神医療の扉を開くか (高木俊介)
- 3 ダイアローグ実践の哲学と臨床姿勢 (白木孝二)
- 4 開業心理相談とオープンダイアローグ (信田さよ子)
- III オープンダイアローグと地域精神医療
- 5 地域精神医療とオープンダイアローグ (下平美智代)
- 6 オープンダイアローグから学んだことを ACT の実践に取り入れてみて変化として認識されたこと (伊藤順一郎・福井里江)
- 7 認知症とオープンダイアローグ (森川すいめい)

IV オープンダイアログのトレーニングと実践に向けた試み

コラム 3 トレーニングコース (大井雄一)

コラム 4 クリニックと訪問看護ステーションを一体化した実践 (西村秋生)

コラム 5 精神科訪問看護という、ひととの出逢いかた——オープンダイアログでつながり深まる世界の中で (三ツ井直子)

コラム 6 琵琶湖病院における対話実践の取り組み (村上純一・山中一紗)

コラム 7 オンライン診療の実態とリモート対話実践プログラム (RDP) (斎藤 環)

おわりに——オープンダイアログとパンデミックと人権 (石原孝二)



オープンダイアログ  
思想と哲学



オープンダイアログ  
実践システムと精神医療

オープンダイアログ・ネットワーク・ジャパン

<https://www.opendialogue.jp>

ODNJP 会報 No. 4

2022.8.1 発行

編集責任：笹原信一郎、大谷保和（ODNJP 広報委員）

編集：杉本光衣（事務局員）

《許可なく転載を禁じます》